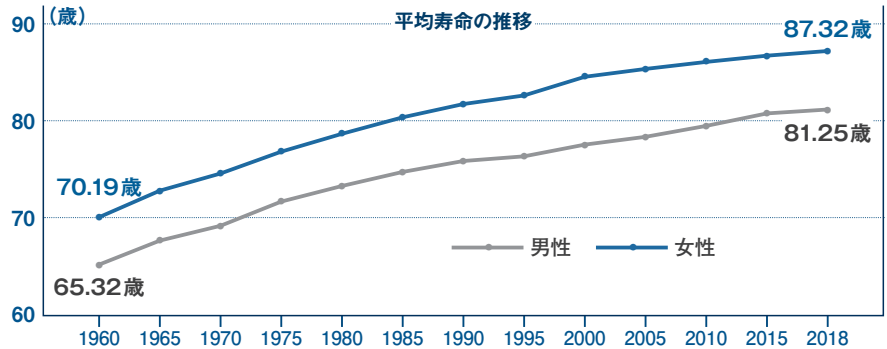


老後最大のリスクである認知症と介護の実態

人生100年時代に向けて、年々長寿化していますが、必ずしも健康な状態での一生(PPK)ではなく、平均寿命と健康寿命の間には、男性では9歳、女性では12歳の差があります。この間に段々と介護が必要な状態になって、最後は自分1人では何もできない状態になり、特に認知症が多く、健康面でも経済面でも老後最大のリスクとなってきています。

1. 平均寿命の推移

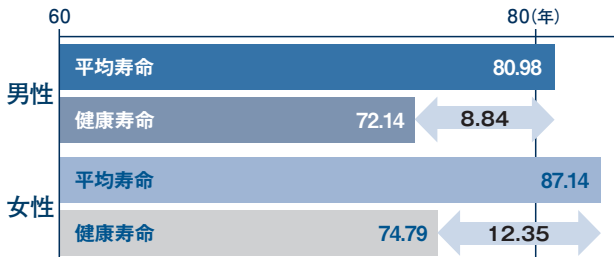
厚生労働省が2019年7月30日に公表した簡易生命表によると、過去最高を更新したことが分かりました。国際比較で見ると、日本女性の世界ランキングは香港(87.56歳)に続いて第2位、男性は香港(82.17歳)、スイス(81.4歳)に続いて第3位となりました。



1960年～2018年は、完全生命表(厚生労働省)を基に作成。2018年は簡易生命表を基に作成。

2. 平均寿命と健康寿命の差

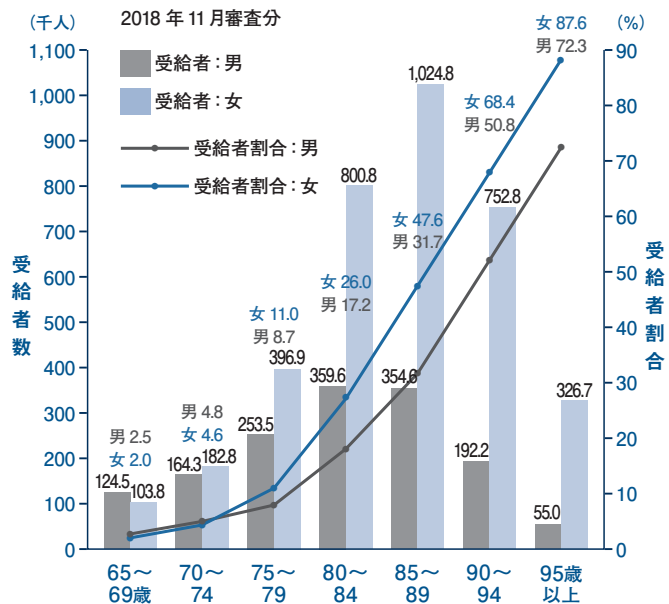
平均寿命と健康寿命の差: 2016年



(出所) 厚生労働省「第11回健康日本21(第二次)推進専門委員会資料」(2020年3月)

3. 要介護者の割合

65歳以上における男女別・年層別にみた介護保険の受給者数および人口に占める受給者数の割合は次表のとおりです。受給者数は男女共80代後半、80代前半が多く、受給者の割合は、年齢とともに高く、95歳以上は男性が72.3%、女性が87.6%となっています。



4. 介護期間

介護期間は、平均4年7カ月で、4～10年未満が30%近く、10年以上も15%となっており、費用面の負担が増加しています。

介護期間

6カ月未満	6カ月～1年未満	1年～2年未満	2年～3年未満	3年～4年未満	4年～10年未満	10年以上	不明	平均
6.4%	7.4%	12.6%	14.5%	14.5%	28.3%	14.5%	1.7%	4年7カ月

(出所) 生命保険文化センター「生命保険に関する全国実態調査」(2020年度)

5. 介護費用

生命保険文化センターの調査によると、介護に伴う一時的な費用の平均は69万円、継続的な月額費用の平均は7.8万円となっています。

総額では、69万円(一時費用)+7.8万円×54.5カ月=494.1万円となり、老後最大のリスクと言えます。また、認知症になると、自分の資産を処分するなど法律行為を単独ではできなくなるため、健康状態のうちに、家族信託契約や任意後見契約を締結しておくことが重要と言えます。

介護費用

〈一時的な費用の合計〉

掛かった費用はない	15万円未満	15万～25万円未満	25万～50万円未満	50万～100万円未満	100万～150万円未満	150万～200万円未満	200万円以上	不明	平均
15.8%	19.0%	8.6%	6.8%	9.1%	6.0%	1.9%	6.1%	26.7%	69万円

〈月額〉

支払った費用はない	1万円未満	1万～2.5万円未満	2.5万～5万円未満	5万～7.5万円未満	7.5万～10万円未満	10万～12.5万円未満	12.5万～15万円未満	15万円以上	不明	平均
3.6%	5.2%	15.1%	11.0%	15.2%	4.9%	11.9%	3.0%	15.8%	14.2%	7.8万円

(出所) 生命保険文化センター「生命保険に関する全国実態調査」(2020年度)